

科目名	権利擁護と成年後見制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	安永 勝代		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	ばあとなあ名簿登録者、および一般社団法人ばあむ法人後見実務担当者として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	相談援助活動と法との関わりについて学ぶ。相談援助活動において必要となる成年後見制度(後見人等の役割を含む)について学ぶ。社会的排除や虐待等の権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		相談援助活動と法との関わりについて理解できる。	
	○	○		○		成年後見制度について理解できる。	
	○	○		○		社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症等の日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座「権利擁護と成年後見制度」における(中央法規出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	日本国憲法 人権				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	日本国憲法 統治機構				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	行政法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	民法 財産法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	民法 家族法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	成年後見制度 法定後見①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	成年後見制度 法定後見②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	成年後見制度 任意後見				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	日常生活自立支援事業				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	成年後見制度利用支援事業				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	権利擁護に関わる組織・団体				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	権利擁護に関わる専門職の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	成年後見活動の実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	権利擁護活動の実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	まとめ・振り返り					
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2)宿題・レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	人体の構造と機能及び疾病						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	少子高齢化の日本の現状において、福祉系職種も適切なソーシャルワーク、ケアマネジメント、地域ケアのコーディネートによって医療職種との連携が必須となっている。多職種協働を目指すために、この授業では、医学に関する基本的知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		人の成長・発達と老化の特徴を学び、説明することができる。	
	○	○		○		身体の構造と心身の機能を学び、説明することができる。	
	○	○		○		代表的な疾病、障害を学び、利用者の状態を理解できる。	
	○	○		○		医療の現場の状況を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座(人体の構成と機能及び疾病) 社会福祉士ナビ 医学一般 からだの事典 国試対策問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス 自己紹介 授業の進め方 医療と福祉			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	人の成長・発達と老化① 身体・精神の成長と発達			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	人の成長・発達と老化② 高齢者に多い疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	身体構造と心身の機能 身体の全体像			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	身体構造と機能・疾病の概要 血液			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	循環器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	泌尿器系の造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	呼吸器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	消化器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	神経系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	内分泌系・生殖器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	支持運動器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	感覚器系の構造と機能 感染症			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	定期試験対策 国試対策に準じる① 過去問24回～26回 模擬問題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	定期試験対策 国試対策に準じる② 過去問27回～30回						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)宿題を出す。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	宿題・レポート	○	○		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助の理論と方法Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	濱中美紀		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	NPOでボランティア支援		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	講義を中心に事例やグループワークを通して、ソーシャルワークに関する各種アプローチ等の理論背景を学ぶ。学生が自身の意見や考えをもとにソーシャルワークの理論を体得できるようにする。その上で、自身が目指すソーシャルワーク像を描き、専門職として働く意識と価値を高めていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ソーシャルワークとは何か、価値を理解し、説明できる。	
	○	○				ソーシャルワークにおける各アプローチ法を理解する。	
		○		○		各専門職の中でのソーシャルワークが果たす役割を理解し、自身のソーシャルワーク像をもつ。	
		○		○		専門職としての意識を高め、社会問題に意欲的に向き合い、考えをもつ。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ガイダンス、ソーシャルワークとは			理解度確認		
	2	相談援助の概念と対象			講義、グループワーク		
	3	ケースマネジメントについて①			講義、事例検討、グループワーク		
	4	ケースマネジメントについて②			講義、事例検討、グループワーク		
	5	グループワークを活用した相談援助			グループワーク、講義		
	6	コーディネーション・ネットワーキングの意義と方法			グループワーク、講義		
	7	相談援助における社会資源の活用・調整・開発①			グループワーク、講義		
	8	相談援助における社会資源の活用・調整・開発②			グループワーク、講義		
	9	ソーシャルワークにおける実践モデルとアプローチ①			事例検討、グループワーク、講義		
	10	ソーシャルワークにおける実践モデルとアプローチ②			事例検討、グループワーク、講義		
	11	スーパービジョンについて			講義、グループワーク		
	12	ケースカンファレンスについて			講義、グループワーク		
	13	事例研究について			講義、グループワーク		
	14	全体のまとめ			講義、グループワーク		
15	正試験対策						
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加度。(2)内容の理解度。(3)定期試験を実施する。以上をを下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記試験)	○	◎				50%
	毎回のふり返り・感想文	○	◎		◎		30%
	授業への参加度	○	○		◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、評価の対象としない						

科目名	精神障害者の生活支援システム						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮崎 聡		
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて精神保健福祉士として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	精神障害者とその家族の支援者である精神保健福祉士(以下PSW)にとって、精神障害とは何かを学び、精神障害者の生活のしづらさを専門職の視点から身につけることは、現場での即戦力へと繋がる。講義では、テキストに沿った事例を用いて、生活支援について検討を深め、支援の知識に加え支援活動が展開できるよう実践力を身につける。また、外部講師を招いて、より専門的な視点から医療を含めた地域支援システムについて理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害の概念となるICFや障害の統計データを学び精神障害を説明することができる。	
		○				精神障害者の居住・就労支援について連携の必要性を身につけ、事例に応用できる。	
	○					精神障害に関連する制度・施策の理解し説明することができる。	
				○		精神障害に対する様々な支援方法について互いに意見を交わすことができる。	
				○		事例から精神障害者のニーズを把握し適切な支援の提供や配慮することができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座7 精神障害者の生活支援システム						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	障害の概念(ICF、障害者基本法、精神保健福祉法)の理解			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	ICFを用いた事例検討			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	精神障害者の生活の実際			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	精神障害者の生活支援の理念と概念			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	地域生活における精神障害者の人権			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	精神障害者の居住支援			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	精神障害者の居住支援に関する事例検討			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	行政における相談援助			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	精神障害者の就労支援			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	外部講師(就労支援事業所 職員)による就労支援の実際を予定			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	精神障害に関する映画観賞とレポート作成課題			レポート課題のため提出期限を厳守		
	12	精神障害者の地域生活支援システム①			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	精神障害者の生活支援システム②			該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	講義総括①			該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	講義総括②(前期定期テスト対策)			該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	①授業ではグループワークを実施するため、積極的な発言や互いの協調性が可能かを評価する ②レポート課題を出すため精神保健福祉士としても専門的な視点から課題に適した内容かを評価する ③定期試験(筆記)を実施する 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		◎		80%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎		○		20%
発表・作品							
履修上の注意	授業への欠席も評価に含める。						

科目名	精神保健福祉援助演習Ⅱ(専門)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	森田 康雅		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	精神保健福祉援助実習後において、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、精神保健福祉援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握することが必要である。精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を身につけることを目的とする。①総合的かつ包括的な相談援助、医療との協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。②個別指導並びに集団指導を通して、擬態的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態で行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○		○	精神障害者の生活や生活上の困難について理解し、説明できる。		
		○	○	○	精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について習得し、説明できる。		
		○	○		専門的援助技術として概念化し実践場面の中で活用できる。		
テキスト・教材 参考図書	適宜、資料配布						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明			実習日誌		
	2~8	精神保健福祉援助実習における学生の個別体験の一般化及びグループワーク、個別面談による事後指導			精神保健福祉援助実習Ⅰの振り返りを行っておくこと PP作成、報告会資料作成		
	9,10	実習評価全体総括会(実習報告会)			レポート提出		
	11,12	事例:社会的排除	第11回以降、設定した事例を題材にして、相談援助場面及び相談援助の過程を想定したグループワーク及びロールプレイを行い、アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発等の実技指導を行う。		授業内で提示		
	13,14	事例:退院支援、地域移行、地域生活継続			授業内で提示		
	15,16	事例:ピアサポート			授業内で提示		
	17,18	事例:地域における精神保健(自殺、引きこもり)			授業内で提示		
	19,20	事例:地域における精神保健(薬物、アルコール依存)			授業内で提示		
	21,22	事例:地域における精神保健(児童虐待)			授業内で提示		
	23,24	事例:教育、就労			授業内で提示		
	25,26	事例:貧困、低所得、ホームレス			授業内で提示		
	27,28	事例:精神科リハビリテーション			授業内で提示		
29,30	その他の危機的状態にある精神保健福祉	授業内で提示					
評価方法	宿題・レポートを実施する。実習報告会を実施する。授業への参加度、プレゼンテーションを含め評価をする。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート		○		◎		30%
	授業態度・授業への参加度			○	◎		30%
	発表・作品	○	○	○	◎		40%
履修上の注意	精神保健福祉に限らず、これまで学んだことの復習をして理解を深めておくこと。精神保健福祉援助実習Ⅰでの体験を振り返り、各自の課題を整理して、演習に積極的に参加すること。出席が2/3に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ					
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	精神保健福祉援助実習の意義について理解できるよう、精神障害者の置かれている現状及びその生活の実態や生活上の困難について授業を行う。「実習要綱」「実習日誌」等を利用し、集団指導及び個別指導を通して実習に必要な知識や技術の確認、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題について、学生自身が考える授業を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			精神保健福祉援助実習の意義について理解できる。	
	○	○		○		精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解し説明できる。	
	○	○				精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解できる。	
				○		精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	実習日誌 配布資料 実習生必携「ソーシャルワーク実習ノート」 株式会社みらい						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明/実習Ⅰ振り返り				精神保健福祉援助実習Ⅰで使用した実習日誌の用意	
	2	実習日誌への記録内容及び記録方法に関する理解(1)				精神保健福祉援助実習Ⅰで使用した実習日誌の用意	
	3	実習日誌への記録内容及び記録方法に関する理解(2)				精神保健福祉援助実習Ⅰで使用した実習日誌の用意	
	4	実習を行う施設等に関する基本的理解(1)				実習Ⅰにおいて実習を行った施設の役割や機能について、制度と照らし合わせて確認しておく	
	5	実習を行う施設等に関する基本的理解(2)				実習Ⅰにおいて実習を行った施設の役割や機能について、制度と照らし合わせて確認しておく	
	6	利用者理解				授業内で提示	
	7	利用者理解				授業内で提示	
	8	実習日誌や実習体験を踏まえた課題の整理				実習日誌	
	9	実習必要書類の作成(1)				学生調査表、実習計画書など必要書類を作成し、〆切期限までに提出する	
	10	実習必要書類の作成(2)				学生調査表、実習計画書など必要書類を作成し、〆切期限までに提出する	
	11	実習必要書類の作成(3)				学生調査表、実習計画書など必要書類を作成し、〆切期限までに提出する	
	12	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解				授業内で提示	
	13	事前訪問(実習生、実習担当教員、実習先の指導者との三者協力を踏まえた実習計画の作成)				授業内で提示	
	14	実習前指導				授業内で提示	
15	巡回指導(訪問指導・スーパービジョン)						
評価方法	実習前において個別・集団指導を行う。 欠席・遅刻には厳しく対応し、書類(レポート、宿題、実習書類)の提出期限厳守・授業への取り組み状況を重視し、小テストを実施した上で、精神保健福祉援助実習Ⅱの実施の可否を判断する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート・書類	○	◎		◎		30%
	小テスト	◎	◎		○		30%
	授業態度・授業への参加度				◎		40%
履修上の注意	演習Ⅱと関連して進めていく。次の課題を全て達成しており、実習の準備ができていることが「精神保健福祉援助実習Ⅱ」の条件となる:①精神保健福祉援助実習Ⅰの振り返りレポート等の提出、②精神保健福祉援助実習Ⅰの実習報告会への参加、③宿題、レポート、書類の提出、小テストで60点以上、④実習前の個別・集団指導を受けている						

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30	担当者	廣田 悦子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学教員		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	第4巻(2学年)と第5巻(本学年:3年生)は同一の科目であり、運動している。第5巻のねらいとしては、『相談援助活動の展開、地域移行支援、地域を基盤にした相談援助の主体と対象、ケアマネジメント、地域を基盤にした支援とネットワーク等からなる。』“地域を基盤に”が強調されているように、第5巻では地域を基盤にした支援や展開の基本的な考え方や必要な技術を中心に授業を行う。 ※ 新精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」“はじめに”を参照。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	△		○		1. 精神障害を対象とした相談援助技術(個別援助・集団援助の過程と相談援助に係わる関連援助や精神障害者と家族の調整および家族支援を含む)の展開について理解する。	
	○	△		○		2. 精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方や支援体制の実際について理解する。	
	○	△		○		3. 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワーク(地域相談援助に係わる組織、団体、関係機関および専門職との連携についての理解を含む)の実際について理解する。	
	○	△		○		4. 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援(地域精神保健活動)の意義と展開について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(中央法規 第5巻) 参考図書:授業中に紹介する						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	2	Ⅰ:相談援助活動の展開 1、相談援助活動の内容と方法 2、個別支援の実際と事例分析			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	3	3、集団を活用した支援の実際と事例分析 4、事例による相談援助活動の検討			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	4	Ⅱ:家族調整・支援の実際と事例分析 1、精神保健福祉における精神障害者と家族の関係			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	5	2、家族支援の方法			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	6	3、事例による家族調整・支援の検討			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	7	Ⅲ:地域移行の対象および支援体制 1、地域移行の対象 2、地域移行の体制			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	8	3、精神保健福祉士の役割と多職種との連携			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	9	4、精神科入院患者の地域移行支援・地域定着支援の取り組み			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	10	5、地域移行にかかわる機関と組織 6、事例による地域移行支援の検討			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	11	Ⅳ:地域を基盤にした相談援助の主体と対象 1、精神障害者を取り巻く社会的状況 2、地域相談援助の主体			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	12	3、地域相談援助の対象			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	13	4、地域相談援助の体制			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	14	5、事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討			テキストの該当ページを読んでおくこと		
15	前期授業 振り返り			テキストの該当ページを読んでおくこと			
評価方法	① 出席率(国家試験受験に基づく法定授業なので出席は10回以上であること) ② レポート(指示された日時までに提出) ③ 態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	宿題・レポート	◎	◎				10%
	授業態度・参加度				◎		10%
履修上の注意	1. 国家試験に必要な科目であるため、出席は10回以上である。 2. 授業中にスマホ等を机の上に置かない、触らない。授業に必要な場合は教員が指示する。						

科目名	交流ゼミⅢ-①					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山 かおり	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	福祉心理学科3年					
授業概要	福祉心理科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	2	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	3	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	4	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	5	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	6	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	7	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	8	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	出席状況				○	
						評価割合
						100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位取得ができない。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。					

科目名	カウンセリング概論									
科目名(英)										
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	富沢理恵					
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	フリーランスでキャリアコンサルタント・心理カウンセラーとしてカウンセリングに従事					
対象学科・学年	福祉心理学科3年									
授業概要	1～2年で学んだ「ピアヘルパー」から一歩すすみ「心理カウンセリング」の概要を学ぶ。カウンセリングに必要な技法「受容・共感・傾聴」を実践で使えるよう理解する。また、ロールプレイで「私を語る」ときに必要となる「自分自身について」を自身で再確認するとともに、「他者から見られている自分」と「自分の思う自分」の違いを知り、新たな「自分」の発見を促す。また、「交流分析」を用いて、「自分の見える化」・「他者の分析」・「会話分析」・「ストローク原理」を学ぶことでカウンセリングの理解を深める。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○		○		カウンセリングに必要な技法を理解し実践で活用することができる。				
	○	○		○		交流分析のエゴグラムを理解し自己理解を深めることができる。				
	○	○		○		交流分析の会話分析を理解し言語コミュニケーションで活用することができる。				
	○	○		○		交流分析のストローク理論を理解し他者と円滑にかかわることができる。				
テキスト・教材 参考図書	講師作成ハンドアウト									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	・オリエンテーション ・心理カウンセリングとは								
	2	授業内の傾聴訓練で「自分のこと」を語るできるよう、ワークを通して「自分とは」を自分自身で知る								
	3	「自分を知る」① のグループシェアリング&全体シェアリング								
	4	・カウンセリングの言語的技法とは・「受容」「繰り返し」「明確化」とは								
	5	・「支持」「質問」「」とは								
	6	・技法を用いてのロールプレイング ・グループシェアリング ・全体シェアリング								
	7	・カウンセリングの非言語的技法とは・「場面構成」の方法・「視線」「表情」「ジェスチャー」「身体接触」「声の質量」								
	8	・カウンセリングの非言語的技法とは・「服装」「座り方」「時間厳守」「言葉遣い」								
	9	・技法を用いてのロールプレイング ・グループシェアリング ・全体シェアリング								
	10	交流分析とは								
	11	・エゴグラムとは ・エゴグラムの作成								
	12	・エゴグラムのシェアリング								
	13	交流分析から考える「会話」の分類								
	14	・ストロークとは ・条件の有無/否定・肯定のストローク								
15	カウンセリング現場での交流分析の導入									
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業への参加状況(ペア&グループワーク)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎				70%			
	グループワーク		◎		◎		30%			
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	情報処理Ⅱ						
科目名(英)	Information Processing Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岡部 充子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にて、システムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科・3年						
授業概要	言葉だけでは伝わりにくい内容を相手により深く理解してもらえるように、プレゼンテーションソフトの代表格である『PowerPoint』を使用した表現力豊かなスライドの作成方法や相手に伝わるストーリー構成を身につけます。また、単にスライドを作成するだけでなく、PowerPointを利用した企画書やポスターなども作成し、モバイルで活用できるオートデモを作成しさまざまな保存方法も学びます。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					PowerPointを活用して、表現力豊かなスライドやA4書類が作成できる	
	○					ストーリーを考え、相手に伝わるプレゼンができる	
	○		○			演習課題などに自主的に取り組み理解を深めることができる	
テキスト・教材 参考図書	・FOM出版 情報リテラシー入門編 Windows8.1 Word2013 Excel2013 PowerPoint2013						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス、PowerPoint基本操作(1)				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	2	PowerPoint基本操作(2) 見やすい表、グラフ、図の操作				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	3	PowerPoint基本操作(3) 図形、画面切り替え、アニメーション				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	4	演習(1) オートデモ作成、保存形式				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	5	演習(2) ポスター作成				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	6	演習(3) ポスター作成				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	7	演習(4) 企画書作成				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	8	中間テスト-これまでの理解度を確認するテストと解説				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	9	プレゼンテーションとは何か、ストーリー構成				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	10	発表のためのシナリオ、企画書作成				シナリオの台本となる資料の準備や各自の意見をまとめておくこと(1時間)	
	11	グループ発表(1) 発表スライド作成(1)				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	12	グループ発表(2) 発表スライド作成(2)				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(1時間)	
	13	グループ発表(3) 発表スライド作成(3)リハーサル				指定時間内にプレゼンができるように各自でリハーサルし、スライドを手直しておくこと(1時間)	
	14	グループ発表(4) 本番、評価				指定時間内にプレゼンができるようにグループでリハーサルし調整しておくこと(3時間)	
15	定期試験				テキストおよび講師配布レジュメのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと(2時間)		
評価方法	(1)授業内で演習課題を実施 (2)中間テストを実施 (3)定期試験を実施 以上を、下記の割合で評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				60%
	中間テスト		◎				10%
	演習		◎		○		10%
	グループ発表		◎		○		20%
履修上の注意	・わからないことは質問して授業内で解決できない場合は復習して次の授業に臨みましょう。 ・出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格はありません。						

科目名	更生保護制度						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)□		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	相談援助に関わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域の支援者、更生保護制度、医療観察法について理解を深めていく。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		相談援助において必要となる更生保護制度について理解することができる。	
	○					更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解することができる。	
	○					刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」 中央法規 2. 新・社会福祉士養成講座「精神保健福祉に関する制度とサービス」 中央法規 3. 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房 4. 配布資料(資料を綴じるファイルの用意)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明				「精神保健福祉に関する制度とサービス」の「第8章医療観察法の概要と実際」について復習しておく	
	2	医療観察制度の概要				授業の復習及び「第1章更生保護制度の概要」を読んで予習しておく	
	3	更生保護制度の概要(1)				授業の復習及び「第1章更生保護制度の概要」を読んで予習しておく	
	4	更生保護制度の概要(2) 少年				授業の復習及び「第1章更生保護制度の概要」を読んで予習しておく	
	5	更生保護制度の概要(3) 仮釈放				授業の復習及び「第1章更生保護制度の概要」を読んで予習しておく	
	6	更生保護制度の概要(4) 保護観察				授業の復習及び「第1章更生保護制度の概要」を読んで予習しておく	
	7	更生保護制度の概要(5) 更生緊急保護				授業の復習及び「第1章更生保護制度の概要」を読んで予習しておく	
	8	更生保護制度の概要(6) 被害者施策、恩赦、犯罪予防				授業の復習及び「第1章更生保護制度の概要」を読んで予習しておく	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					60%
	宿題・レポート	◎			○		40%
履修上の注意	出席が3回以上欠席した者定期試験の受験資格を与えない。 レポート提出は提出期限厳守とし、以降受け付けない。						

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感もてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、配布プリント(ファイルを用意)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	求職票受付面接とは①				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	3	求職票受付面接とは②				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	4	求職票作成①				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	5	求職票作成②				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	6	求職票作成③				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	7	求職票受付面接練習①				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	8	求職票受付面接練習②				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	9	求職票受付面接練習③				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	10	求職票受付面接練習④				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	11	求職票受付面接(本番)①				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	12	求職票受付面接(本番)②				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	13	履歴書下書き①				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
	14	履歴書下書き②				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと	
15	履歴書下書き②				就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
評価方法	提出物は各期限を設定する。 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○			◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	出席率が90%以上でなければ学校求人への応募はできないため、就職活動に影響があることに注意が必要。 出席が2/3に満たない場合は成績評価を行わない。						

科目名	金曜ゼミ I					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)	
対象学科・学年	福祉心理学科3年					
授業概要	社会人になるために必要なマナーを含め、福祉職として働くうえで必要な知識、技術を実際の現場で経験し、就職活動をすすめていく。就職内定に向けて、施設や事業所、会社等において自習実習を計画的に実施する。					
授業形式	講義:	演習: △	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
			○	○		福祉事業所等で自主的に活動することが出来る。
	○	○		○		社会人に必要な「報告・連絡・相談」をすることができる。
		○				各事業所等の仕事を理解することができる。
				○		希望就職施設または企業から内定をもらう。
テキスト・教材 参考図書	金曜ゼミ報告書					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	2	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	3	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	4	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	5	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	6	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	7	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	8	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	9	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	10	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	11	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	12	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	13	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	14	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	15	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
評価方法	活動報告書がない場合は出席とみなさない。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	出席状況				◎	
	活動報告書	○	○	○	◎	
						評価割合
履修上の注意	活動予定表の提出及び報告書の提出が提出期限内にない場合は出席とみなさない。 出席が2/3に満たない場合は単位取得ができない。					

科目名	精神保健福祉援助実習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	120時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	実習指導者による指導のもと、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について実際に学ぶ。3年次の8月～9月の間に精神科医療機関等では90時間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で120時間以上の配属実習を行う。						
授業形式	講義：△	演習：	実習：○	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践的な技術等の体得をしている。	
	○	○		○		精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。	
		○		○		精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
		○		○		総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	精神保健福祉援助実習日誌						
授業計画	授業項目・内容・授業外学修指示						
	<p>1. 精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>(1) 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助</p> <p>(2) 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</p> <p>(3) 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</p> <p>2. 精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>(1) 治療中の患者及びその家族への相談援助</p> <p>(2) 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助</p> <p>(3) 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助</p> <p>3. 学生は、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。</p> <p>(1) 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>(2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</p> <p>(3) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成</p> <p>(4) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価</p> <p>(5) 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践</p> <p>(6) 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>(7) 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>(8) 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践</p> <p>(9) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>4. 精神保健福祉援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>						
評価方法	実習指導者の評価、実習日誌の記載内容・実習後のレポート提出を含め、総合的に勘案する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習日誌・レポート	○	○		◎		40%
	実習	○	○		◎		60%
履修上の注意	「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」における課題を全て達成していることが履修の条件となる。						

科目名	家族心理学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	矢野隆子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	カウンセラー歴28年		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	家族とは何か、変化する多様な家族形態、家族をとりまく問題などに対して心理学や家族システム理論、家族療法の視点から学習する。授業において前半は家族を理解するための基礎的な概念や発達、家族現象などの関連要因について考察し、後半では家族理解と支援の方法をグループ学習や演習によって実践的に学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					家族の定義や機能について複数の視点から説明ができる。	
		○				家族療法の知識や視点を踏まえ、家族や家族を取りまく諸問題の理解や分析ができる。	
		○				現代的な家族問題とその支援の方法について説明することができる。	
		○				家族に関する心理学的な視点からの知識を学び、関連した療法の概要を説明することができる。	
			○			家族問題についての構造やシステムの考えから説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	有斐閣ブックス2019年 第2版「家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助」 ミネルヴァ書房2017年 初版7刷「よくわかる家族心理学」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス ・グループエンカウンター					
	2	家族とはなにか ①日本の家族現象と変化			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	3	②多様化する家族の形と機能			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	4	③家族の変化と発達			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	5	家族システム理論と家族療法			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	6	家族を理解するための鍵概念			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	7	グループワーク「家族に関わる」					
	8	家族の発達と課題 ①結婚による家族の成り立ち			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	9	家族の発達 ②子育て期の家族			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	10	家族の発達 ③思春期から青年期の家族			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	11	家族の発達④r老年期の家族			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	12	家族への臨床的アプローチと家族療法の実際			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	13	他の臨床的アプローチの違い			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	14	代表的な家族援助の実際①夫婦			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
15	家族療法の実際② 子育て ・家族心理学まとめ			教科書の該当範囲を読んでおくこと			
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 授業への参加態度(グループワーク・振り返りシート提出) 成績評価はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	演習・グループワーク				◎		10%
	振り返り・レポート提出	○	◎		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						